平和

ヒロシマ平和メディアセンター　http://www.hiroshimapeacemedia.jp/

ジュニアライターがゆく

原爆被害を乗り越えた「被爆楽器」を演奏する動きが国内外で広がっています。中国新聞ジュニアライターは、ピアノとバイオリンのかつての持ち主の被爆体験や、保存・演奏活動をしている人たちの平和への思いを取材しました。ゴールデンウイークにあった2019ひろしまフラワーフェスティバル（ＦＦ）のステージで取材の成果を発表し、事前に録音した被爆ピアノの伴奏に合わせて平和の歌を合唱しました。

惨禍乗り越えた被爆楽器

ピアノの傷 被害物語る 国内外巡り平和訴え

知る

事前に録音した被爆ピアノの伴奏に合わせて合唱するジュニアライター　（４日、ゴールデンシャワーステージ）

河本明子さん

爆心地から約3キロ圏内で原爆の爆風や熱線、放射線を受けたピアノは「被爆ピアノ」と呼ばれます。側面には、ガラスの破片が突き刺さってできた傷や、爆風によってできたとみられるへこみがあり、原爆被害の大きさを物語っています。

広島市安佐南区の調律師矢川光則さん(67)は、2001年から被爆ピアノを修復してコンサート活動を続けています。現在、6台を所有。工房でピアノを見せてもらいました。

活動を始めたのは、被爆者からピアノ修理を依頼されたのがきっかけでした。壮絶な被爆体験を聞き、平和のために自分に何ができるのか考えたといいます。

被爆ピアノの修理は最低限にとどめ、側面の傷などもできるだけ残しています。「無数の傷は原爆の恐ろしさを伝える力を持っている」と考えるからです。

被爆ピアノを積んだトラックを運転して日本各地を回り、年間約180回の演奏会を開いています。17年12月、非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）がノーベル平和賞を受賞した時にノルウェー・オスロで開かれた記念コンサートでは、世界的に有名なピアニストが演奏し、音色が世界に響き渡りました。

一般社団法人「HOPEプロジェクト」代表の二口とみゑさん(70)＝佐伯区＝も、被爆ピアノを通じて平和の尊さを発信しています。19歳で被爆死した河本明子さん愛用のピアノを譲り受け、市内の小学校などで「明子さんのピアノ」の演奏会を開いています。

河本さんは、爆心地から約1キロの中区で建物疎開作業中に被爆し、翌日亡くなりました。ピアノは爆心地から2・5キロの自宅にあったものです。「大好きだったピアノを再び弾くことができなかった明子さんの悲しみを伝えたい」と二口さんは言います。

上・修復した被爆ピアノの前に立つ矢川さん（撮影・高3藤井志穂）
下・被爆ピアノを演奏する林田さん。側面には被爆時の傷が残る（撮影・中2中島優野）

パルチコフさんの被爆バイオリン

音楽教師のバイオリン

露出身 広島女学院が所蔵

広島女学院大（広島市東区）にある歴史資料館に、被爆したバイオリンが展示されています。ロシア出身のセルゲイ・パルチコフさん＝写真＝が愛用していました。

パルチコフさんは、ロシア革命を逃れて1922年に来日。広島女学校（現広島女学院中・高）で音楽教師を務めました。当時、学校で演奏会を開いたり、学生とオーケストラを結成したりして、市民の注目を集めていたそうです。

爆心地から2・5キロの自宅で、バイオリンとともに被爆しました。パルチコフさんが亡くなった69年以降も、家族が被爆時に壊れたバイオリンを大切に保管していました。86年に学校法人広島女学院へ寄贈され、修理も行われました。

パルチコフさんの被爆体験記は、何も残っていません。バイオリンはパルチコフさんが伝えたかったであろう思いを、伸びやかな音色で発信しています。

このバイオリンと「明子さんのピアノ」は8月、NGOピースボート（東京）の客船に積み込まれ、船内で演奏されます。船は日本国内と韓国、ロシアを巡ります。乗船者が核廃絶や平和について考える機会になってほしいです。

奏でる FFでステージ発表 「温かい気持ちになる音」

「被爆楽器」について取材した私たちジュニアライターは4日、FFのステージに登場しました。パネルを作り、知ったり感じたりしたことを発表するとともに、被爆ピアノに合わせて平和の歌も披露しました。

重いピアノをFFの会場に運ぶのは難しいため、安佐北区のピアノ工房で保管されている「明子さんのピアノ」を中3の林田愛由さん(14)が事前に弾き「アオギリのうた」と「折り鶴」を録音しました。約100年前に造られた米国製です。

本番では、ジュニアライター約20人が録音に合わせて合唱を披露しました。多くの来場者が聞いてくれました。林田さんは「被爆で傷ついているのに、とても温かい気持ちになるような音が出た。明子さんのピアノに対する愛を指先から感じた」と話しました。

被爆楽器は、元の持ち主の楽しい思い出とともに、原爆の悲惨さも伝えます。

次回は６月３日に掲載します。取材を通して中国新聞ジュニアライターが感じたことをヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトで読むことができます。ＦＦでのステージ発表の様子を撮影した動画もあります。

世界経済人会議

平和への貢献 東京でも議論

広島で参加の若者が企画

事例発表などを通じ、経済活動の平和貢献を考えた東京セッション

広島県などでつくる実行委員会主催の「国際平和のための世界経済人会議」に参加し、その趣旨に共鳴した首都圏の若者たちが動きだした。経済活動が平和にどう貢献できるか考えようと、東京都内で同会議の「東京セッション」を初めて開いた。

同会議は2013～18年に3回、広島市内で開催。国内外の企業や非政府組織（NGO）の関係者たちが平和貢献の方策を議論した。参加した人のうち、経営学修士（MBA）取得を目指していた都内の若手有志たちが「東京にも議論の場をつくろう」と企画し、18年末から準備してきた。

約150人が参加し、企業の実践紹介で福山市の和洋菓子製造、虎屋本舗の高田海道副社長が登壇した。高田氏は瀬戸内海の離島で和菓子教室を開いたり特産を生かした商品を開発したりする試みを紹介し、「世界平和とまではいかないが、瀬戸内の平和と安定にはアプローチできると思う」と語った。

紛争地でテロリストの社会復帰支援に取り組むNPO法人や、発展途上国で学習支援を続ける企業の報告などもあった。

企画した有志の一人、佐々木喬史さん(28)＝千葉市＝は「経済活動のはざまで見過ごされてきた社会問題が平和実現を阻んでいる。経済界は人材やノウハウ、資金力を生かして問題解決に取り組むべきだ」と強調。「また開き、人のつながりを広げたい。東京と被爆地のパイプ役を目指す」と話した。

（田中美千子）

ホロコーストの中の子どもたち ❸

福山の記念館 所蔵品から

ゲットー内を描いた絵画「ママ死なないで」

カラフルな命 奪う世界

赤いワンピースの少女がゲットー（ユダヤ人居住区）の中で息を引き取ろうとする母を守るように手を広げている。迫害の中で日々繰り広げられた光景だろう。ゲットーと強制収容所の劣悪な環境の下、飢えと病気で多くの人が亡くなった。

米国の画家ジーニー・ネイヤーさんが、日本の子どもに向けたメッセージを添えて、この絵を記念館に贈ってくれた。「静かに立ち止まって、考えてください。あなたが笑い、学び、成長できること、そして優しい思いやりのある人になることが大切なのです。与えられたことを家族と友人、そして世界に分け与えてください」

「夜と霧」とも表現されるホロコーストは、色彩が失われた灰色の世界だ。その中でこの赤色は、印象的に人々の心に残る。ある生還者が、赤い服を着た自分の娘が虐殺された様子を涙ながらに証言した事実をモチーフにしている。

ホロコーストの悲劇は、150万人ものカラフルな小さな命が失われたことだ。当館の展示室の出口には同数の色とりどりのビーズでつくったオブジェを置いている。歴史の悲しさを今に伝えるために。

（ホロコースト記念館・大塚信館長）

かこさとしの世界展

2019年6月15日(土)－8月4日(日) 会期中無休

9:00～17:00(金曜日は～19:00)※入館は閉館の30分前まで ※6月15日は10:00からの開会式終了後、開場いたします。

［入館料］一般1,200(1,000)円、高・大生900(700)円、小・中生500(300)円

◎(　)内は、前売りまたは団体（20人以上）の料金。◎本展とコレクション展示は共通の入館券です。
◎65歳以上の方は、一般団体料金（1,000円）となります。年齢確認の出来るものを受付にご提示ください。◎障がい者手帳をご提示の方は、ご本人と同伴者1人が無料になります。

〈前売券販売所〉ひろしま美術館、中国新聞販売所(取り寄せ)、中国新聞社読者広報部、広島市内の主なプレイガイド、画廊、画材店、書店、セブン-イレブン(http://7ticket.jp)、ローソン店内「Loppi」(Lコード:61584)

【主催】公益財団法人ひろしま美術館、テレビ新広島、中国新聞社　【後援】広島県教育委員会、広島市教育委員会、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz　【協力】加古総合研究所、小湊鐵道　【協賛】広島銀行　【企画協力】アートキッチン

公益財団法人 ひろしま美術館 HIROSHIMA MUSEUM OF ART　〒730-0011 広島市中区基町3-2 中央公園内（リーガロイヤルホテル広島北側）TEL.082-223-2530 FAX.082-223-2519
URL.http://www.hiroshima-museum.jp/［駐車場は5台分（一般車両）しかスペースがございません。公共交通機関をご利用ください。］

『だるまちゃんとてんぐちゃん』（部分）1967年／『だるまちゃんとかみなりちゃん』（部分）1968年／『だるまちゃんとうさぎちゃん』（部分）1972年／『だるまちゃんととものこちゃん』（部分）1984年〈福音館書店〉／『からすのパンやさん』（部分）1973年〈偕成社〉　©Satoshi KAKO ©Kako Research Institute Ltd.2019